

「ご命日」に聞く

インターネットの普及がもたらしたものは、便利な情報ツールという点だけでなく、情報過多と作業及び判断の加速化による、人間関係や価値観の大きな変化でしょう。これが仏事においても多大な影響をもたらしていることは、既に皆さんご存知のことと思います。さらに貧困問題に直面し、人々の経済観念がシビアになりつつあります。葬儀における出仕僧侶数・相続講金(院号申請)・中陰や月忌参り等の減少と、仏事にかかる経済的負担をなるべくコンパクトに、また儀式等を軽んずる傾向が見受けられます。残念ながら一部の現代人にとって仏事は「わずらわしいもの・負担となるもの」となっているのではないのでしょうか。加えてお寺を支えていこうと尽力下さるご門徒の高齢化や減少、世代交代に対する不安要素や、過疎・過密の問題もあります。そのような傾向の中で、寺院で行われる法座へ足を運んでいただくことは、より難しくなってきました。

これまで真宗寺院は、報恩講や二十八日講を通して宗祖親鸞聖人の御命日を大切にし、法座を開席することで宗祖の教えを確かめ直すことよって、宗祖の御命日が法縁となってきた歴史があります。また、人々とお寺の出会いの多くも亡き方を縁としています。そのご命日も法縁と言えるでしょう。宗祖の御命日も大切な方のご命日も、同じ大切な法縁です。それならば、お寺での法座も各ご家庭で行われる仏事も、大切な法座の場と言えます。

「ご命日」に出会っていききたい、このように思っております。それを教区の皆さんと共有したく、部会員が聞き書きさせていただいた「ご命日」のお話を不定期に『北海真宗』誌面また『親鸞Mag』にて掲載します。宗祖や有縁の方々の「ご命日」を大切にすることは、企画部会6期から7期を貫く中心課題「法縁の過疎」を考えることにつながります。

さて、現代社会が私たち僧侶に求めているものは何でしょうか。実はとてもシンプルで素朴な、しかし真摯な姿だと思えます。第6期企画部会が行ったグリーンフケア公開講座において、講師の尾角光美氏(一般社団法人「リヴオン」代表理事)は僧侶のことを「喪の旅の伴走者」と表現しました。この言葉は、遺族そしてグリーンフケアに携わる側としての尾角氏から僧侶へのエールではないでしょうか。しかし時には、自分の都合で月忌参りが日々のルーティンと化してしまうことも否めません。また、同じく6期のグリーンフケア公開講座講師酒井義一氏(東京教区存明寺住職)は尾角氏の言葉を受けて、僧侶を「苦悩の現実を生きる求道者」としています。「自分が人に対して何かしてあげるといふ立場に立つのではなく、僧侶自らが苦悩満ちあふれる現実を生きる一人の求道者に立ち返る。苦悩を抱える一人として自分が道を求める者に立ち返る。」と語られています。「一人の求道者の道を求める姿勢が、他に対しての確かで静かな教化になっていく」という言葉との出会いによって喚起された表現です。

お二人の言葉をかりるならば、真宗僧侶は伴走者であり求道者たらんことを願われているのでしよう。日々の法務を丁寧積み重ね、共に歩む姿をご門徒から待たれていないのではないのでしょうか。そしてこの「ご命日」の取り組みが、亡き方や僧侶、そして真宗に対しての様々な思いに気づかせていただくことではないでしょうか。法縁である

「ご命日」に向き合うこと、それは目の前のお一人と向き合うことです。そのことを大切に「ご命日に聞く」に取り組んでいきたいと思えます。

部長 義盛充香



悲しみを通して

出遇い直す

御門徒のmさん(69歳)は今年の8月16日、奥さまをガンで亡くされた。mさんはその悲しみをこのように語ってくださいました。

日馬 この度は教区の企画にご協力いただき有難うございます。色々世話になってるからこれくらいなんもだ。

日馬 有難うございます。早速ですが亡き人について色々教えていただきたいのですが。

m うん。結局はガンで死んだんだけども。

日馬 辛いですよ。大事な人が病気でいる姿みるのは。

m 辛かったね。まさか、あの日死ぬと思ってなかったからさ。

日馬 病気がわかってからもわりとお元気だったのですか。

m いや、だんだん弱っていった余命ないこと先生から聞いてたんだ。でも食欲はあったよな。

日馬 くわしくお聞きしても大丈夫ですか。

m 余命ないの知ってたから、できるだけ傍にいてなんでもしてやりたかったんだ。あの日すごく辛そうで傍にいて欲しいそうにしてたんだ。だけど俺、仕事休みなくてさ。こっちも体こわいもんだから心配だったけどすぐ帰ったんさ(病院から)。その日の朝だもん(亡くなった日)。悔い残るのが一番辛いわ。

日馬 そうだったんですね。

m そんななら泊まればよかったんだ(病院に)。まさか、あれ最後とは思わんもな。しばらく信じられなかったよ。

日馬 そうですよ。急に悪くなつたんですね。

m いや、急じゃないよ。悪いのわかってたんだ。でも、まだ明日も会えると思ってたんだ。だから全然実感なかった。だけどそのままにしとけんし、あちこち連絡してさ。市役所いくのに一人になって初めて泣けた。

日馬 誰かいると涙みせられないですよ。

m うーん。しなきゃならんこといっぱい実感なかったんだよな。一人になって死んだのかって思ったら悲しいって言うより後悔だ。なんで今日死んだんだって。一緒にいればよかった。手握ればよかった、声かければよかったって。

日馬 辛いですよ。

m 火葬前が一番みんな辛そうだったな。俺ももうこういう姿(生身の姿)で会えないんだって思うと辛かったね。でも住職(火葬場まで)ついてきてくれたしよ。ありがたかったな。骨拾うところには何かわからんけどほっとした気だったな。

日馬 お骨になった姿みて少し(死を)受け入れられたんですね。

m いやわからんけど(亡くなった)実感ないけど何かほっとしたな。

日馬 私が火葬場でお勤めさせていただいたことおっしゃってくださいましたが、大きな悲しみのなかで、お寺や僧侶がもつ役割を果たせてましたか？

m いや、住職にはきちんとしてもらえてありがたかったですよ。

日馬 そのこと(通夜葬儀など)がなにか安心させるような、効果あっていたら変ですけど、やっぱりお寺とか僧侶って意味あると思いますか。

m そりゃ、あるしよ。正直あいつ死んでから、ただ辛かった。どこにいても悲しかった。死んだんだなって考えては後悔ばっかりしてたな。

日馬 こうしたかったとか、ああすれば良かったって思いますよな。

m そればかりだったね。だからお寺とか仏さんの話聞こうなんて思わなかった。金いからかかるとかかは思うんだけどな。

日馬 そうですよ。大きな悲しみの中で仏さまの話聞こうとは、なかなかありませんよね。

m

でもよ、住職(法話)してくれたろ。俺は聞きたいと思っただけで、俺は聞きたかったから色々考えさせられた。住職に「何言ってるんだ。」って怒られるかもしれないけど住職の話聞いてたり、お経黙って聞いてると、住職うち以外にもお参り行くんだよなって思ってたから、住職行くうちみんな誰か死んでんのか。俺だけじゃないんだなって思ったんだ。

日馬

ほんとですね。私行く家はみんなだれか亡くされてますね。

m

そうさ。そう思ったら俺だけじゃないんだな、辛いのはって思った。ちゃんとしなきゃなって。そう思えたのはあいつ(亡き方)のおかげかなって思ったんだよな。

日馬

私もお話ししながら本当に大切なことを教えられたように思います。今回の企画についてどう思いますか？

m

住職がどうしてもっていうからやるけど、あんまり聞かれないよな。言いたくもないし。

日馬

そうですね。悲しみを思い出しますしね。

m

それもあるけどわからんだらうしさ。

日馬

気持ちですか？

m

まあ、そうだな。ほかの者にはできないな。あいつ(息子)とだって話なんもしないからな。そうだったんだって思われたくないからな(亡くした気持ち)。

大きな悲しみの真只中にある方を前に、真宗の寺院、真宗の僧侶ができることは何だろうか。グリーフケアリングという言葉がある。グリーフケアリングでは深い悲しみの中にある人を一方的に励ますのではなく、寄り添う姿勢が大切といわれる。しかしながら、寄り添ったつもりが寄り添ったことにならない。悲しみを共有したくてもしきれない現実がある。どれほど大切に思っても一つになれない、心の痛みを共有できない。そのことを悲しみとして、私はあなたと一緒に仏法を聴聞したいと呼びかけ続けたい。

(文責 日馬教生)

案内

無量の会主催

第38回公開講演会

◇日時

12月2日(日)

15時30分開場

16時開会

(17時45分終了予定)

◇講師

石飛幸三氏(特別養護老人ホーム芦花ホーム常勤医)

◇講題

「穏やかな最後を迎えるために」

◇会場

真宗大谷派 旭川別院大谷ホール(旭川市宮下通2丁目)

◇聴講料

500円(事前の申し込みは不要です。どなたでもご参加いただけます)

◇問合せ

光岸寺 赤松範秀
☎0166-57-2224


無量の会主催
第38回 公開講演会
穏やかな最後を迎えるために
講師 石飛 幸三 氏
日時 12月2日(日)
15時30分 開場
16時 開会
(17時45分 終了予定)
会場 真宗大谷派 旭川別院 大谷ホール
(旭川市宮下通2丁目) 0166-22-2409
聴講料 500円

東本願寺会館報恩講のご案内

◇日時

12月19日(水)15時から
17時30分まで

◇場所

北海道東本願寺会館
(北海道教務所)2階講堂

◇法話

仁禮秀嗣氏
(木古内町圓照寺住職)

◇講題

本物の念仏者
※どなたさまもご自由に御
参詣ください。